

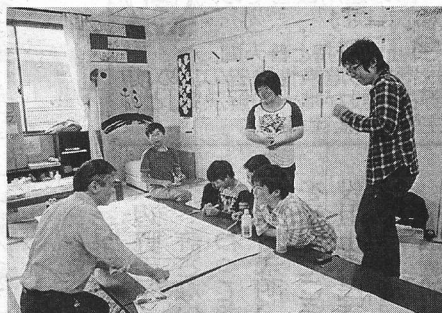
津波とその後火災で廃虚

となった宮城県石巻市南浜・門脇地区。刻々と変わり続ける風景と共に私は五年の時を重ねてきました。南浜の死者・行方不明者は合わせて四百人余に上ります。私は「いしのまき寺子屋」の子どもたちと、二〇一二年八月から一年かけて、南浜復興祈念公園の

東北復興日記



▶▶▶ 184



東日本大震災圏域創生
NPOセンター
(いしのまき寺子屋)事務局長
太田美智子さん



建設的な話し合いの場を

シオラマ(縦百六十枚、横百七十八枚)を製作⇒写真⇒し、子どもが考えた復興公園計画として石巻市長に提案しました。

要であると訴えました。

一五年には、南浜地区復興祈念公園計画を検討する市民検討協議会の委員に任命され、この問題に真剣に取り組んできました。そして先月二十九日、公園に関する市民説明会で基本設計が明らかにされ、その公園概要の資料を見てがくぜんとしました。

尽くされたのか疑問が残る施設の設置も目につきました。結局、資料には私たちが主張してきた避難道についての明記は無く、また、市民が参画する公園の管理・運営のあり方についても盛り込まれていませんでした。津波から生き延びた私たちは、なんとか気持ちを奮い立たせ、話し合いを重ね、行動し、発言してきました。どうか今後も市民を交えた丁寧な建設的な話し合いができる新たな協議会が設立されることを切望しています。

翌年には有志市民で「南浜地区の未来をみんなで考える会」を立ち上げ、中学生から大人まで参加する市民ワークショップを三回開催、市民フォーラム一回を行政と共催し、八百五十五の意見を全て分析してまとめ、市民の声として市に報告しました。いずれの提案にも歩いて避難できる避難道や、市民が公園の管理・運営に参画する体制が重

園内の多目的広場には野球場やサッカー場が整備されることになっていました。これは基本理念の「すべての生命への追悼と鎮魂の思い」とも「から逸脱していると思うのです。ほかに、議論が十分

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載されています。